



東日本大震災がもたらした

平成23年3月11日に起きた東日本大震災で、東北から関東地方の太平洋沿岸は、地震と津波による大きな被害を受けました。

原子力発電所の事故

東日本大震災の地震と津波がもたらした東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、放射性物質が放出され、今なお日本にとって最大の環境問題となっています。

放射性物質と除染

放射性物質

放射線を出す物質のことで、もともと自然界に存在しているものもあります。東京電力福島第一原子力発電所の事故では、発電所内にあった放射性物質が放出されました。

放射能

放射性物質が放射線を出す能力を「放射能」といいます。

放射線による人への影響

強い放射線を受けると、人間の体をつくっている細胞のDNA(遺伝子)が傷付き、細胞がガン化してしまうなど、健康への影響が生じる場合があります。

除染

放射能は、時間とともに自然に減っていきますが、放射線の量をできるだけ早く減らすため、「除染」という作業が進められています。具体的には、「放射性物質が付いている土や草木などを「取り除く」」、「放射線を土などで「さえぎる」」、「取り除いたものを生活している場所から「遠ざける」という3つの方法を組み合わせて、「除染」を進めています。

取り除く

さえぎる

遠ざける

除染の3つの方法

健康を見守るために

福島県では、震災が起きた平成23年から現在まで、放射線による健康への影響などを調べる「県民健康調査」を行っています。この調査は、震災の時に福島県に住んでいた子どもたちを中心に、すべての住民を対象にしています。